

事故防止マニュアル(幼児)

活動		保育者の配慮事項
登園		<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭での様子を聞き、健康状態を把握する。 ・ 傷がある場合は、いつどこで受傷したものか確認しておく。 ・ 降園時に安全・確実に引き渡すため、迎えの時間・者を確認する(普段と異なる場合)。 ・ 緊急時の連絡などのために、緊急連絡先の変更がないかを確認しておく。 ・ 園で飲む薬がある場合は、保護者に記載してもらった薬の「連絡票」の内容と記名(薬)を確認し、1回分のみ受け取る。 ・ 保護者と話をしながらも、子どもの行動に気を配る。 ・ 爪等が伸びていないか、活動しやすい服装かなどを確認する。 ・ 保護者からの伝言は、確実に担任に申し送る。
	室内遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内は、整理整頓を行い、使用した物は収納場所に片付ける。 ・ ロッカーや棚は倒れてこないか確認をする。 ・ 衝突しやすい角や家具には、ガードを取り付ける。 ・ おもちゃは、年齢に合っているか、破損はないか確認をする。 ・ 遊び終わったおもちゃは片付けるよう促す ・ クレヨンや粘土を誤飲しないように注意する。 ・ 鼻や耳に小物を入れて遊ばせないように注意する。 ・ おもちゃを友達に投げつけたり、振り回したりしないように注意する。 ・ ドアの開閉の際は、子どもの指の位置を確認してから行なう。 ・ 引き出しやドアを開け閉めして遊ばせないようにする。 ・ 椅子に立ち上がったり、机に乗ったり、もぐったりしてふざけさせない。 ・ はさみを使用したら、出したままにせず、必ず片付ける。 ・ マットは、めくれないようにしておく。 ・ 子どもの腕を強く引っ張らないように注意する。 ・ 手の速い子、かみつきの激しい子には、素早く防止できるように気を配る。 ・ 子どもの活動は常に把握する。
	ク ラ ス 別 の 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもには帽子をかぶせ、足に合った靴できちんと履けているか確認をする。 ・ 保育者の姿が見えないところでは遊ばないことを教える。 ・ 誰がどこで遊んでいるかを把握する。 ・ 固定遊具や園庭の安全点検を定期的に行なう。 ・ 遊具は年齢に合っているか、破損はないか、濡れて滑りやすくないかなどの確認を行なう。 ・ 固定遊具の側には保育者が付き添い、危険な行動をしている子には遊び方やきまりを教える。 ・ 遊具は仲良く、順番に使えるように指導する。 ・ 揺れているブランコには近付かないように指導する。 ・ おもちゃを持ったり、かばんを掛けたりしたまま、固定遊具で遊ばないよう指導する。 ・ 滑り台の上や階段でふざけたり、押し回したりしないことを教える。 ・ 滑り台では衝突しないように、前の子どもが滑り終わってから順番に滑るようにさせる。 ・ 非常階段・非常用滑り台は、緊急時以外は使わないことを教える。 ・ 友達が鉄棒で遊んでいる時、近づくとぶつかってしまう危険を教える。 ・ 鉄棒で遊ぶ時は手を離さないこと、無理な姿勢をとらないことを教える。 ・ おもちゃを友達に投げつけたり、振り回したりしないように指導する。 ・ 砂場の汚染や周りの枠の安全点検を行う。 ・ 三輪車やスクーターは、指定した場所で遊ばせる。 ・ 縄跳びやロープは出したままにせず、片付ける。 ・ フェンスや門などに登ることがないように注意する。
	散 歩	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散歩や園外保育に行く前には、事前に目的地や経路に危険な物がないか、安全に遊べるか下見しておく。 ・ 目的地、コース、人数、引率者、帰園時間を知らせ外出承認簿に記入する。 ・ 子どもには帽子をかぶせ、足に合った靴できちんと履けているか確認をする。 ・ 列の前後には保育者がつくようにする。 ・ 人数確認は複数の保育者で、頻回に行う。(出発時、途中、帰園時) ・ 列全体の歩くスピードを考えて誘導する。 ・ 道路に落ちている物をむやみに拾ったり、触ったりしないように注意する。 ・ 手をつないでいる時、引っ張り合って肘内障になることがあるので注意する。 ・ 横断歩道の渡り方や道路では飛び出さないなど、交通安全のルールを教えていく。

ク ラ ス 別 活 動	散 歩	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの行動を見守りながら、保育士間の連携を図る。 ・ 公園のトイレに行くときは、必ず保育士が付き添う。 ・ 公園で遊ぶ際は、地域の子どもも利用しているので、人数確認・遊び方に気を配る。 ・ 公園の遊具は必ずしも安全とはいえないので、年齢に合った遊具なのか、濡れて滑りやすいかを十分確認してから使用する。 ・ 固定遊具の側には保育者が付き添う。 ・ ジュースの空き缶やタバコ、動物の糞など、危険な物がないか確認を取り除く。 ・ 池や川、用水路など水辺を通る時は転落しないように見守る。 ・ 犬や猫は、見せるだけにして触らせない。
	排 泄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 床が濡れていると転倒しやすいので、雑巾などで拭き、ドライにしておく。 ・ トイレや手洗い場では走らないように指導する。 ・ ドアの蝶番には指を入れないよう指導すると共に、入らないようガードを貼る。 ・ トイレの洗剤や消毒液などは、出したままにしておかず、必ず手の届かない所に片付ける。
	水 遊 び	<ul style="list-style-type: none"> ・ プール内、プールサイドの衛生管理をする。 ・ 水遊び中は必ず2人以上体制を取り、子どもから目を離さない。 ・ 薬品等は保育者が管理し、子どもの手の届かないところに保管する。 ・ プール遊びの注意事項を知らせ、守って遊んでいるか確認をする。
	給 食 お や つ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誤飲・窒息を防ぐため、年齢に合った形態(大きさ・硬さ)を確認をする。 ・ 保育者は全ての子どもの食べている様子を確認する。 ・ 口に食べ物を詰めすぎないようにする。 ・ 骨がのどに刺さらないように、魚を食べる時は骨に気をつけて食べさせる。 ・ 椅子をばたばたさせて転倒しないように、食事のマナーを知らせていく。 ・ フォークや箸、歯ブラシを振り回したり、くわえたまま走り回らせない。 ・ 食物アレルギー児の除去食・代替食は間違えて提供しないように確認をし合う。 ・ 依頼を受けた薬は、間違いなく飲ませる。
	午 睡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室温調節はこまめに行い、冷やしすぎないようにする。 ・ 保育室は子どもの状態が確認できる明るさにしておく。 ・ 物が落ちてこない所で寝かせる。 ・ 顔にタオルや掛け布団がかからないようにする。
	降 園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康状態をチェックする。 ・ 園での怪我は、保護者に傷を確認してもらい、伝え忘れがないようにする。 ・ 保護者と話をしながらも、子どもの行動に気を配る。 ・ 死角が多くなる時間帯なので、夕方の遊びや生活のルールを決め、安全を確保する。 ・ 迎え予定者ではない人が来た時は、すぐに子どもは渡さず、保護者に確認をとる。 ・ 保護者に受け渡した後でも、園内にいる場合は、遊具での遊び方に気を配る。
	延 長 保 育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引継ぎを確実にし、担任からの伝言をメモで渡し、担当者が責任をもって保護者に伝える。 ・ 夕刻で集中力が子どもも保育者も低下している時間帯なので、安全保育に心がける。 ・ 死角が多くなる時間帯なので、夕方の遊びや生活のルールを決め、安全を確保する。 ・ 保護者と話をしながらも、子どもの行動に気を配る。 ・ 迎えに来て降園した子どもと、保育中の子どもを、チェック簿などで時間帯ごとに人数の確認を行って、把握しておく。 ・ 迎え予定者ではない人が来た時は、すぐに子どもは渡さず、保護者に確認をとる。

事故リスクの軽減のためのチェックリスト

記入日：平成 年 月 日

園 長	記入者

	必ず実施	だいたい実施	余り実施せず	実施せず	コメント
子どもの持つリスク対策					
1 健康観察や家庭からの報告より子どもの日々の情緒・体調の把握を行ない保育面への配慮を行っている					
2 危険な行動への注意の喚起をしている					
3 遊具、園庭、プールでの遊び方の指導を積極的に行っている					
4 危険を回避するために、安全教育を実施している					
5 危険につながる行動については、保育園全体で注意を喚起している					

保育者の持つリスク対策					
1 保育者の事故の認識、危険予知能力の向上に努めている					
2 子ども各人の発達段階や特徴を職員全体で把握している					
3 子どもの行動予測を十分認識している					
4 園舎、園庭の特性の把握とそれらに対する配慮をしている					
5 施設の使用上の連携と協力を、職員間で行っている					
6 職員間で声を掛け合い、危険防止の確認をしている					
7 職員間の情報交換とチームワーク作りをしている					
8 クラス担任は、クラス全員の状況を把握している					
9 子どもの状況把握のための保育者の位置の確認をしている					
10 午睡時の職員の付き添いと表情の見える明るさの確保をしている					
11 事故原因の分析と防止方法の検討と全職員への注意喚起をしている					
12 子どもの発達に合った遊具の選択と遊び方の指導をしている					
13 保育者間で園庭、プール、固定遊具等の遊び方について確認している					
14 固定遊具で遊ぶときは保育士が付き添っている					
15 園外の散歩時は異常時に対応できる十分な人数が付き添うようにしている					
16 手をつなぐペアは安全確認ができる子ども同士としている					
17 日案、週案、月案の指導計画は事故防止の配慮も取り上げている					
18 保育カリキュラムの反省時に安全面についても話し合うようにしている					
19 他児に攻撃的な面のある園児の行動については、全職員が予測して対応するようにしている					
20 肘内障など起こしやすい子どもを職員全員が把握している					
21 午睡、園庭、散歩、延長保育など状況にあった人員の配置を行っている					
22 クラス担任だけでなく全職員が子どもの事故防止に心がけている					
23 発生時の連絡、通報ができるように準備している					

施設、設備、遊具の持つリスク対策					
1 園舎内外の施設、設備、遊具について毎日安全点検を行っている					
2 異常を発見した際には早期に修理している					
3 遊具の破損したものは直ちに片付けるようにしている					
4 安全点検は毎日、職員全体で協力して行っている					
5 危険な薬品や刃物、千枚通しなどは子どもの手の届かないところで管理している					
6 砂場の深さ、遊具の角、室内備品の置き方や角などについて環境整備を行っている					

0歳児クラス用 事故防止チェックリスト

記入日：平成 年 月 日

園 長	記入者

	必ず実施	だいたい実施	余り実施せず	実施せず	コメント
1 園で使用するベビー用品は、子どもの年齢や使用目的にあったものを選び、取扱説明書をよく読んでいる					
2 子どもの周囲に角の鋭い家具、おもちゃ、箱などがなく必ず確認し、安全カバーをつけたり、危険なものはすぐに片付けたりしている					
3 子どもの手の届く高さにあるコンセントには、指が入らないようにしている					
4 ベビーベッドの柵は必ず上げている					
5 おむつの取り替えなどで、子どもを寝かせたままにしてそばを離れることはない					
6 子どもを抱いているとき、自分の足元に注意している					
7 子どもを抱いているときは、気をつけて階段を降りるようにしている					
8 子どもの上に、物が落ちてこないように安全を確認している					
9 ミルクを飲ませたあとは、排気(げっぷ)をさせてから寝かせている					
10 子どもを寝かせるときは、よだれかけを外している					
11 ベビーベッドの柵とマットレス、敷布団の間にすき間がないことを確認している					
12 敷布団は硬めのものを使用している					
13 子どもを寝かせるときは、あお向けに寝かせ、睡眠チェックリストを活用して呼吸状態を確認している					
14 午睡後、十分に覚醒しているか、一人一人の状態を十分に把握している					
15 ドアを開閉するときは、周りの安全を確認し、勢いよく開閉しないようにしている					
16 ドアのちょうつがいには、子どもの手が入らないように注意している					
17 ドアにはストッパーをつけ、ドアの近くで遊ばせないようにしている					
18 子ども用のいすは安定のよいものを使用している					